

アユ資源の状況について

1. 魚群探知機による調査

- 1月から8月まで魚群探知機を用いて、水深30m等深線上を一周して魚群数を計測する調査(周回魚群調査)、および北湖全域を横断して資源尾数を推定する調査(トランセクト調査)を行っている。
- 両調査ともに1月から6月まで、資源水準は平年を概ね下回ると評価している。6月の魚群数は286群で平年比87%(図1)、6月の推定資源尾数は1.19億尾で平年比92%(図2)であり、いずれも昨年同時期の値を大きく上回っていた。

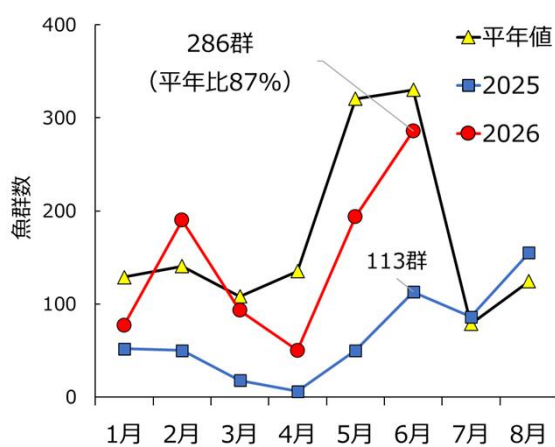


図1 魚群数の推移

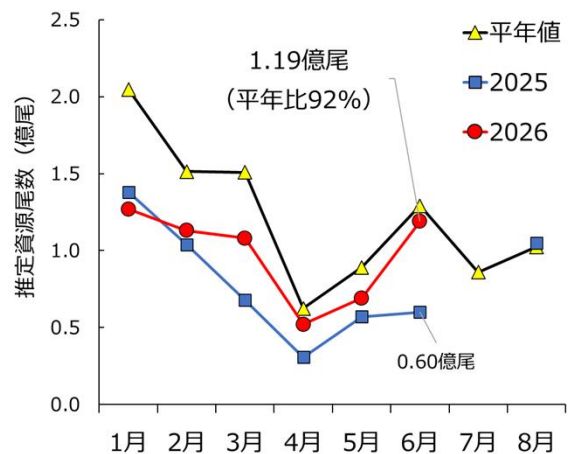


図2 推定資源尾数の推移

2. 漁獲アユの体型

- エリ漁獲アユの平均体長は、1月と2月は平年をやや上回って推移。3月以降は概ね平年並みで推移していたが、6月は平年を上回った(図3)。
- ヤナ漁獲アユの平均体長は平年より高い値で推移(図4)。

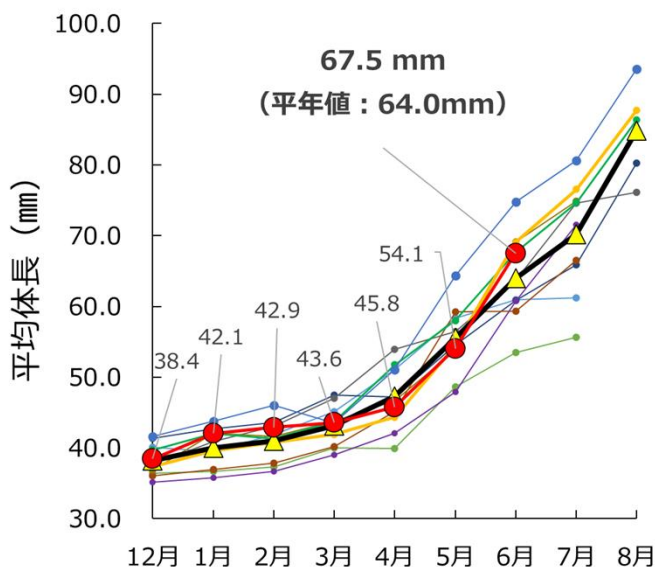


図3 エリ漁獲アユの平均体長の推移

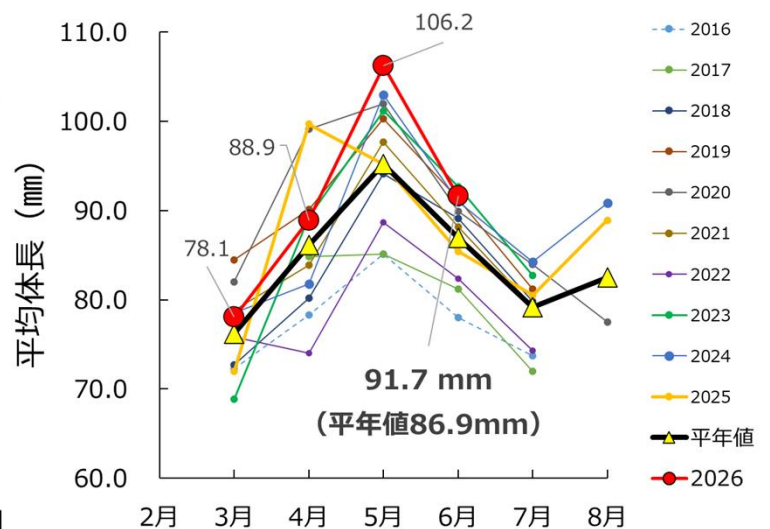


図4 ヤナ漁獲アユの平均体長の推移

3. 漁法別漁獲状況

漁法	漁獲状況
エリ	12月の活アユ注文量は年内に充足したものの、前年12月から2月まではやや低調に推移。 - 北湖南部(以下、南部)では4月中旬から、北湖北部(以下、北部)では4月下旬から獲れはじめた。 <u>南部</u>では5月下旬ごろからワカサギ稚魚が混ざり始め、<u>アユの漁獲が減少した</u>。一方で、<u>北部</u>では場所によっては5月よりも漁獲が上向き、<u>6月以降もまとまった量が獲れている</u>。
ヤナ	4月上旬から一部の河川で獲れはじめた。 5月以降はほとんどの河川で漁獲がみられるようになり、特に出水後にまとまった漁獲があった。 5月は河川水量や日、場所によって漁獲に差がみられたが、6月以降は<u>いずれの河川でもまとまった量が獲れている</u>。
小糸網	<u>北部</u>では1月から獲れはじめ、一部の場所では4月下旬から漁獲量は増加傾向で、<u>6月もまとまった量が漁獲された</u>。 <u>南部</u>では4月中旬ごろから獲れはじめ、5月がピークとなった。<u>6月も一定の量が漁獲された</u>。
沖すくい網	解禁当初(6月上旬)は低調であったが、日を追うごとに漁獲は上向き、<u>出漁すると一定の量は安定して獲れている</u>。